

福島大学行政政策学類同窓会

阿武隈会報

第30号

発行年月日 令和6年9月1日
発行所 福島大学行政政策学類同窓会阿武隈会
〒960-1296 福島市金谷川1番地
発行人 小林 孝
編集者 堀江 正樹・須藤 達也
工藤 真之・加藤 千里
題字 大谷 明夫
(初代行政社会学部長)

「人生の隠し味」

阿武隈会会長

小林 孝



会員の皆様におかれましては、日頃より阿武隈会の活動にご理解・ご協力いただき、心より感謝申し上げます。

コロナ禍は落ち着きを見せてはいるものの、気候変動や自然災害、物価高騰等、厳しい状況は続いています。そのような中でも、同窓生の皆様は、行政社会学部・行政政策学類で培われたものを生かし、様々な分野でご活躍のことと思います。

昨年度は、総会・懇親会を4年ぶりに開催し、多くの同窓生にご参加いただき、交流を図ることができました。今年度も10月に開催いたしますので、多くの同窓生にご出席いただければ幸いです。

題名の「人生の隠し味」ですが、高校生の時に、「お寺の法話テレホンサービス」を聞いた記憶から引用しました(当時はインターネットなどなく、電話が主なコミュニケーションツールでした。観光案内、怪談等いろいろなテレホンサービスがありました)。その法話の内容は概ねこのようなものでした。

「おしるこには隠し味で塩を入れます。甘さとは反対の味ですが、砂糖の甘さが引き立ちます。人生も同じで、苦しいことや悲しいことを経験することで、人生の楽しいことやうれしいことが引き立つのです。人生にも隠し味が必要なのです。」

自分の福大行政での4年間は「何味」だったのか思いを巡らすと、いろいろな味がありすぎて表現することは難しいのですが(笑)、4年間で今の自分を引き立たせていることは間違いないと考えます。さらに、隠し味や何味というよりは、人生における大まかな「味覚」が定まった場所だったのではないかと思います。同窓生の皆さんにとってはいかがでしょうか。

私にとって、福大行政で(良いことも悪いことも)学んだ(遊んだ?)ことが、現在の社会人としてのベースとなっているのは疑問をはさむ余地がなく、福大行政に感謝しながら同窓会活動をしているところです。

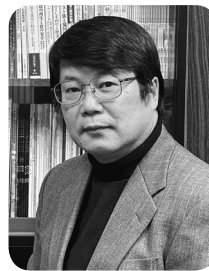
阿武隈会が、同窓生にとっても、また母校にとっても、必要な存在となるよう努めていきたいと改めて感じた所存ですので、同窓生の皆様におかれましては、阿武隈会の活動に関心を持っていただき、関わっていただけますよう心からお願い申し上げます。

結びに、福島大学行政政策学類の更なる発展を祈念するとともに、会員の皆様のますますのご健勝をお祈り申し上げ、あいさつとさせていただきます。

ごあいさつと 学類の近況

行政政策学類長

高橋 準



学類長を務めております高橋です。「阿武隈会」の皆さまには、日頃より学類の研究、教育、地域連携等でご協力いただき、誠にありがとうございます。心より感謝申し上げます。

さて、学類の近況ですが、まずは今年度の入学者からです。今年度の学類入学者は、昼夜あわせて214名、女子104名、男子110名でした。ここ数年、男女比はほぼ1対1です。また福島県内からは106名、県外からは108名の入学となっております。こちらもほぼ半々の状態が5、6年続いています。

大学院は昨年度より改組があつて、「地域デザイン科学研究科地域政策科学専攻」となりました。定員8名のところ、昨年度入学者は5名(うち社会人1名)、今年度も同じく5名(うち社会人1名)の入学がありました。

あまりかんばしい数字ではありません。改組された大学院ですが、研究科統合があつたため、だいぶ外側からわたくしどもの専攻が見えにくくなっているようです。進学説明会も外部の方にご参加いただけるよう工夫をして、毎年度、7月、12月に開催しています。卒業生のみならず、必要に応じてお問い合わせください。今年度もお一人、卒業生の方が入学されました。

さて、前回の会報では、全学再編の動きについて触れました。7月下旬にはメディア報道もあつたため、概略についてご存じの方も多いかと思います。ただ、学内にもいろいろな意見がありまして、まだきちんと公表ができるころまでは進んではおりません。学長としては今年度中にめどをつけたいようなので、来年の3月、4月あたりまでには、大学から発表があるかもしれません。この場で十分な情報をお伝えできず、たいへん心苦しいのですが、もう少しお待ちください。

もうひとつ、昨年の会報でお伝えしたことがありました。学類スタッフによる『大学的福島ガイド』(昭和堂、2024年9月刊行予定)の出版です。おかげさまで、編集作業も大詰めを迎え、7月末現在最終段階の細かいチェックに入っております。こちらには「阿武隈会」と後援会からのご支援をいただくことになっております。なお現在、「阿武隈会」のみならずにもお気軽に手にとっていただけるよう、出版社とプランを練っております。こちらは間に合えば、会報と同時にご案内できるかと思います。

国立大学協会(国大協)が今年6月に発表した声明には、財政面で「もう限界です。」と書かれていました。国からの交付金が切り詰められる中、財政悪化は国立大学が共通して抱えている課題です。福島大学も無縁ではありません。ですが、「限界」だからといってあきらめるのではなく、今後も学類スタッフ一同、教育・研究に力を注いでいきたいと思っています。お力添えをどうぞよろしくお願いいたします。

「学問の世界も様変わり」

行政政策学類教授 福島 雄一

こちらに寄稿させていただくのも5回目になります。早いもので評議員の3期目に入りました。今回もよろしければお付き合いください。

現在、NHKで放送されている連続テレビ小説、いわゆる朝ドラですが、「虎に翼」の評判が非常に良いようです。知り合いや家族に話しをすると私の周りにも、毎日見ている、面白いという声が多いです。かくいう私も毎日見っていますが、とても気に入っています。

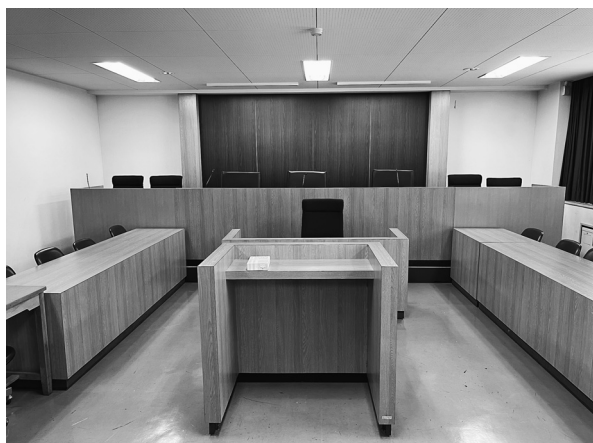
このドラマは、日本初の女性弁護士、初の女性判事であり、戦後に女性法曹として活躍される三淵嘉子先生をモデルとしたものです。このドラマですが、いろいろと繋がりがありました。1つ目は、本学の高等教育企画室の前川直哉准教授がドラマのジェンダー考証を担当しています。2つ目は、モデルとなった三淵先生が、私の母校の明治大学法学部の大先輩ということです。それに、彼女の戦争中の疎開先が福島らしいということも繋がりを感ずります。

ドラマは、女性差別の色濃く残る時代に法曹として身を立て大きな業績を残す三淵先生の人生を描くものですが、主役の寅子を演じる伊藤沙莉さんははまり役という感じで、脇を固める他の出演者の方の演技も魅力的です。それに、いまの時代でも女性差別をはじめとして様々な差別が払拭されたとはいええない状況が、当時の女性法律家の苦勞と重なるのかも知れません。私が法学部の学生だった頃は昔で、もう40年も前ですが、そのときに法学部の女性比率は1割でした。今は法学部で3割ぐらいが女性という話を聞きますが、増えたといえば増えたし、あまり変わっていないともいえます。

私のドラマの楽しみ方は、史実をベースとしているので、寅ちゃんの先生は本当は東大の家族法の穂積重遠博士かなとか、2代目の最高裁長官は実際には商法学の権威の田中耕太郎博士と聞き感動したり、モデルとなった実際の人物を探すことでしょうか。私がドラマをみて率直に感じたことは、民主的な社会の重要性や法学に対して真摯に誠実に臨む主人公の姿でした。今の時代は理念や理想を語ることが少なくなっています。日々の目の前の現実の課題に四苦八苦して、議論も近視眼的なものになっています。本当は、先の見えない混乱した時代には、新しい理念、理想や哲学が必要なのでしょう。ドラマは敗戦後の日本国憲法の理想を元に社会を民主化するために奮闘する人々の姿を描いていて、理想と現実のギャップに苦心するのですが、その憲法の理念や理想も時間と共に国民に浸透するでしょうという台詞と共に展開します。翻って現代に差別はなくなったのか、社会は民主化して平等な社会になったのかと問われると、疑わしいです。目の前の経済や生活の苦勞に目が行っていて、理想はどこかに行ってしまうようにもみえます。私は、法学の役割とは、本当の理想は手が届かない天の上にあるけれども、当面実現可能な手の届く理想を一つずつ積み重ねていくことが法学だと考えています。

本学類には、実はもう一つNHKの朝ドラと繋がりが 있습니다。1996年に放送された「ひまわり」というドラマです。私と同世代の方であればご記憶の方もい

らっしゃるかと思います。松嶋菜々子さん主演で事実上のデビュー作だと思います。彼女が新人弁護士として活躍するのですが、ドラマでは福島地方裁判所で司法修習生として修行する場面が描かれました。当時はまだ行政社会学部と名乗っていた本学類ですが、このドラマをみていた当時の民事訴訟法担当の教員が、テレビ放送で使用された福島地裁をモデルに作られた法廷のセットを大学に譲り受けられないかとNHKと交渉したのですが、残念ながらそれは適わず、代わりに法廷のセットの設計図を入手しました。それは、かなり忠実に福島地裁の法廷を再現したもので、設計図を元に法廷を作り、その後、裁判員裁判が始まる時に裁判官席の椅子が足りない買い足して、それが今、行政棟の1階にある法廷教室です。



行政棟1階の法廷教室



令和5年度法律討論会の様子

これまではテレビの影響力は絶大でしたので、検察官や弁護士を有名俳優が演じると、その職業の人気が上がるということは良くありました。ただ今はネットの時代です。テレビをみない大学生もたくさんいます。試しに学生に朝ドラみてるか聞きますと、やはりみないという答えが圧倒的です。時代は変わりました。

最近法学部の人気がなくなってきているという話をよく聞きます。いわゆる司法制度改革時のロースクールの失敗が大きな原因と思われます。かつては就活の際につぶしが利く学部として法学部は人気があり

ました。法曹になるだけではなく、企業の経営や管理業務、あるいは公務員といった様々な職種に法学の知識やものの考え方は役に立つからでした。しかし、産業や社会構造の変化、政府の政策変更などに伴い、学部の人気にもトレンドがあります。特に近年の文科行政の誘導もあって、理高文低という流れが来ています。国立大学に人文社会科学系は必要ないという議論が以前にあり問題視されましたが、理系重視という看板の元に行われた予算配分によって、事実上、人文社会科学系はピンチに陥っています。ここ数年の大きなトレンドは、理系、農学系の増設強化、理系と文系の中間ともいえるデータサイエンス系の新設などです。人口減少や地方の疲弊もあり、本学類と似た地域系の学部も増えていますが、理系重視ははっきりしています。近隣の東北大学は国際卓越研究大学に選定され毎年100億単位の資金が落ちてくると聞いています。

この流れとは逆に、従来からあるオーソドックスな経済学部、法学部、文学部といった学部が影に隠れてきています。政府の政策が産業育成と関連付けられている傾向が強いので、大学の人材養成もこれに引きずられて、理系人材が必要となれば大学でそれを養成するようとなります。企業の人材養成機能の一部を大学に移管したともいえます。他方で受験生は、卒業後の就職を念頭に学部選択をする傾向があるので、これからはグローバル社会といえど国際系、高齢者の介護が話題となれば看護・福祉系、コロナでデジタル人材の不足が分かると情報系、賃金や社会的地位を考えると医学系といったように学部の人気も流行に左右されますが、流行なので雇用条件が悪いとかもう人員は必要ないとか産業のトレンドが変わるなど前提条件が変わると急速に人気がなくなります。このような学部のトレンドの変化が、少子化による学生数の大幅な減少という教育市場の中で起きるので、今の大学経営は容易ではありません。

話を法学に戻しますと、2023年5月13日の東京大学五月祭で、AI裁判官 (ChatGPT4) による模擬法廷「AI法廷の模擬裁判」というイベントが開催されました。この際のプロンプトも公開されています。例えばシナリオみたいなものですか。以前から裁判はコンピュータ化に馴染むのではないかという話がありました。それは判例という膨大なデータベースがあるので、それを元にして法的三段論法を駆使してコンピュータが判決という結論に至るといことです。そこに現在話題になっている生成AIが登場したので、急速に実現の可能性が高まります。デジタル好きな私としては、現在の技術での試みとしてとても興味深く感じています。このように最も古い学問の一つである法学にもデジタルの波は押し寄せています。私が専門としている商法においても、会社法の体系書にファイナンス理論が出てきたりゲーム理論で説明するものがあり、科学や数学が多く登場しています。既存の学問分野も急速に理系化して変容しています。

つい先日(2024年7月3日)に旧優生保護法の違憲判決が最高裁判所であり画期的なものと注目されました。旧優生保護法を個人の尊厳と人格の尊重の精神に著しく反し憲法13条に反するとし、時間の壁といわれた20年の除斥期間を著しく正義公平に反し権利濫用に当たるとしました。このような当事者の利害が錯綜した複雑な裁判をAIはどう考えるのか、正義や公平、個人の尊厳と人格の尊重、被害者救済といった理念や理想をAIは理解できるのでしょうか。デジタル好きな私

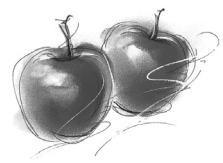
ですが、今の技術を前提にすると、不安や疑問が湧いてきます。

また、技術の進歩に法律が歩調を合わせる必要がある場面も出てきました。日本でも2026年にホンダ、GM、クルーズが共同で都内で無人タクシーを導入する計画があります。自動運転はレベル5まで段階を追って実用化されていきますが、それに併せて保険などの被害者救済をどうするかという法律の整備が必要です。レベル4のドライバーの乗っていない無人タクシーが中国やカリフォルニアでたくさん走っていますが、サンフランシスコで多くの事故の報告や自動運転車に反感を持つ人たちの暴力行為が報道されました。まだ技術的に完成していない車両の規制を法律で考えるのは難しい問題です。なににしても法律家も技術トレンドに明るくなければいけません。文系だからという言い訳はもう通用しません。

法学は基本的に保守的な学問です。判例や学説の積み重ねというように先例を重んじること、あまり極端な結論は多くの人に受け入れられないので社会統制可能な中庸な結論を求めがちなこと、社会通念といった多くの人の常識に判断の重きを置くことなどを考えるとどうしても保守的な思考になります。理系の分野の話を聞いて思うことは、考え方の違いでした。まずは実行してみて、だめだったら他の方法を考えようというチャレンジングな傾向を理系の研究に感じます。法律を勉強すると失敗しないようにと始める前から慎重になりがちです。失敗した場合の責任が問題になる分野だからかもしれません。理系の思考と文系の思考の違いがあるのかもしれませんが、しかし、変化の早い今の時代を考えると、まずはやってみるフットワークの軽い理系的な思考が時代には合うのかもしれませんが。例えば、お盆のお休みの時期の高速料金の調整による渋滞緩和のような、いわゆる社会実験と呼ばれるものが身近で多くみられるようになりました。

大きく時代が変わろうとしているときには、学問も大学も変化を求められます。学問に流行や廃れというトレンドが生じます。それでも、学問が真理を探究し人の幸せに貢献するという使命をもつことに変わりはありません。むしろ理系文系の区別なく、学問の社会的重要性が高まるといえます。新しい時代には新しい学問が必要なのは確かです。近年では法学部を卒業して普通にIT企業に就職する学生も多いと聞きます。頼もしい限りです。若い学生諸君は自ら新しい道を切り開いていくでしょう。そして、大学は学生に新しい時代に対応できる環境を用意する必要があります。

時代の流れの中で、法学が学問の流行のトレンドからはずれることがあるとしても、やはり独自の学問的な観点から社会で行われている物事の是非を慎重にチェックする役割は重要です。多くの人の常識を反映した社会通念を無視して社会を運営することは難しいからです。保守的との非難を浴びることもあるでしょうが、なにごとにもバランスが重要です。それに、是非を判断する基準である社会通念自体が、時代によって変化します。社会常識も変わります。つまり、技術革新の速度と社会通念の変化の速度のずれが問題になりますが、このずれを修正するためには、多くの人が文系理系両方の知見をもち社会的関心を高める必要があります。文系と理系は排他的なものではなくて車の両輪だと思うのです。



福島大学の今

卒業以来、大学にいったことがないという方も多いでしょう。今回の記事では、福島大学の今の姿を紹介します。この記事をご覧になり、昔を懐かしんだ方は、ぜひ大学を探検してみたいはいかがでしょうか。

(8頁の学生寮の写真に続く)

図書館

福島大学附属図書館は、現在福島日産自動車とネーミングライツ契約を結び、2023年から、「フクニチャージ図書館」と呼ばれることとなりました。

図書館一階には、ラーニングコモンズという場所があり、飲食自由のスペースとなって多くの学生が学習を行っています。また、2013年には学術情報メディア棟が増設されました。

卒業生にとっては昔なつかしき、風景と新しい風景が混在している場所になっています。



図書館2階



ラーニングコモンズ

食農学類、共生システム理工学類棟

2005年4月から共生システム理工学類、2019年4月

から食農学類が新設されました。また、東日本大震災以降、様々な施設が建造されました。大学内では見たこともないような建物が様々なところで見られます。



共生システム理工学類棟



共通講義棟「S棟」



食農学類棟

大学生協



購買店

普段の食事や書籍の購入などに利用した生協。現在はこのような姿ですが、初見でここがどこなのか、分からない方も多いのでは。写真をじっくり見ると、当時の姿が浮かんでくるかもしれません。



食堂

● 会員からの近況報告 ●

学び直し再スタート
の舵を切る

5 期生

岡 泰成

早いもので私立の福島成蹊学園に就職して29年目に入った。職場では学校事務を担当している。事務は予算、決算、物品の発注、施設の点検管理、主催行事の補助など多岐にわたっている。これらは、学生時代のゼミ（地域環境論演習 中馬教允先生）や福大祭実行委員会、学内新入生歓迎実行委員会、福島野尻湖友の会などの活動が役に立っている。

福島成蹊高等学校で事務を行っていたが、東日本大震災の年に開校3年目の中学校に異動になった。

福島成蹊中学校は、中高一貫教育6年間で大学受験に備えた学力を養成し、また尾瀬登山や臨海教室などの行事を通じて様々な体験をすることで成長していくようカリキュラムが考えられている。実際、入学時には少し大きな制服を着たかわいらしい姿であるが、6年後の卒業時には見上げるように立派になり、迷いのない顔で卒業していく。自ら勉学に励み医学部をはじめとする希望する進路を掴んでいる。生徒のそのような時期と一緒に過ごせるのをうれしく思っている。それが私の職業生活の日常である。

私生活では、鉄道趣味と会津化石研究グループの活動を主に行っている。

鉄道趣味は、様々なジャンルがあるが、基本「乗り鉄」で時刻表を片手に乗り歩いている。未乗車路線もついに1路線となった。（独自基準）私はあの大きくて分厚い時刻表が一番だと考えている。時刻表は網羅的で旅に関するヒントがたくさん書かれている。出かけて眺めの良い所を走るローカル線も都会の錯綜する線路群を見るのも良い。晴と雨の境界線を列車で進んだこともあった。出かけられないときは時刻表を見ながら次の計画を考えるのも楽しい。

会津化石研究グループの活動は、喜多方市高郷町にある「喜多方市カイギウランドたかさと」を中心に海だった時代の会津地方の化石の研究やクリーニングなどを行っている。化石発掘体験などで訪れた方もいらっしゃるかもしれない。私は、地元の発掘成果は、地元に残し、そこで研究するという「地元主義」の考え方に賛同している。その成果の結晶が「たかさとカイギウランド」なのである。そこに微力ながら参加している。だが、最近は勉強不足を感じている。もっと腰を据えて学んでいきたいと考えている。

やってきた事の整理、見直しをする時が来ている。まだ、仕事でも趣味でも学び直しの再スタートが切れるはずだと考えている。

福島の魅力の世界へ
～アナウンサーの挑戦～

26期生

幡谷 明里

趣味はダイエット、特技はリバウンド！？とにかく食べること・笑うことが大好き。

視聴者からは“歩くパワースポットだね。”と言われることが多く、今となっては、私のキャッチフレーズになっている。

大学時代、公務員を目指す人が多い中、わたしの夢はアナウンサーになることだった。

きっかけは、13年前の東日本大震災。当時、私は高校一年生。

天栄村で農業を営む実家は、原発事故による風評被害を受け、当時販路がゼロになった。

不安な日々を過ごす中、転機となったのがテレビ局の取材だ。

放送後、米の注文やたくさんの応援メッセージが届き、テレビの与える影響力の強さを身に沁みて感じた。

これを機に、今度は自分がテレビで多くの人に“恩返しをしたい。”と思い、福島県のアナウンサーを目指すことに。

福島テレビに就職し、5年間、情報キャスターとして、日々取材をする中で、見えてきた福島の県民性がある。それは「郷土愛が強いが、恥ずかしがり屋で内向的な人が多いこと。」

そのため、福島の良さを外に発信しようとする人も少ない。

未だ復興の道半ばにある福島。

福島で生まれ育ったからこそ分かる想い、震災を経験したからこそ分かる痛み、悲しみがある。そして、大きな壁を乗り越えた先の喜びも知っている。

そんな私にできること。それは、福島の皆さんの心に寄り添いながら、アナウンサーとしての発信力、そして、デジタルネイティブ世代に生まれた知識を生かして、福島の良いところ・変化を、福島の外へ発信していく役目だ。

私自身、今年からフリーアナウンサーになり、テレビ局で培った経験を武器に、福島の魅力をもSNSやYouTubeで世界に向けて発信している。今の目標は、世界的に急成長しているデジタルノマドを福島に誘致することだ。

「福島には行きたくない」。その言葉が「福島に行きたい」。そう変わる日を信じて、今日も私は福島の魅力を発信している。



行政政策学類 阿部浩一教授が 戦国時代の塩の歴史に関する 「塩のsenjutsu(戦術)」を連載

塩事業センター（旧日本専売公社）の「塩と暮らしを結ぶ運動」による「くらしお古今東西」のコーナーでは、日本各地の塩の文化・歴史や、塩と暮らしに関する話を紹介しています。

令和 5 年度には、行政政策学類の阿部浩一教授（日本中世史）が「塩のsenjutsu（戦術）」と題して、戦乱の相次いだ戦国時代に各地の戦国武将たちはいかにして塩を確保し、活用していたのか、塩にまつわる"senjutsu"（戦術）について 6 回にわたり連載しました。

第 1 回：戦国大名のsenjutsuと塩の関わり（滋賀県）

第 2 回：塩の生産と確保のsenjutsu（静岡県）

第 3 回：塩の流通・商人とsenjutsu（山梨県）

第 4 回：senjutsuとしての塩留（埼玉県）

第 5 回：塩の効能とsenjutsu（神奈川県）

第 6 回：戦国を生き抜いた武将たちと塩づくりのsenjutsu（千葉県）

「くらしお古今東西」ホームページ

<https://www.shiotokurashi.com/kokontozai>

行政政策学類 長谷川ゼミ学生が 福島労働局と福島労働基準監督署 を訪問

令和 5 年 5 月、専門演習で労働法を学ぶ長谷川珠子准教授とゼミ学生 14 名が、福島労働局と福島労働基準監督署を訪問し、職場見学会に参加しました。労働局や労働基準監督官の仕事内容について説明を受けた他、実際に各職場を見学する機会も得て、若手職員との貴重な意見交換の場となりました。意見交換会に参加された若手職員の中には行政政策学類卒業生の姿もあり、大いに刺激を受けました。

<https://www.ads.fukushima-u.ac.jp/topix/2023/06/011557.html>

行政政策学類 阪本尚文准教授が 「政治経済学・ 経済史学会研究奨励賞」を受賞

令和 5 年 10 月、行政政策学類の阪本尚文准教授が、政治経済学・経済史学会 2023 年度秋季学術大会（於：駒澤大学）で発表したポスター報告「高橋幸八郎の戦争—1941-1945」が、特に優れた研究業績と認められ、「政治経済学・経済史学会研究奨励賞」を受賞しました。

同ポスターは、戦後の我が国の社会科学に大きな影響を与えた 20 世紀日本を代表するフランス革命史家、高橋幸八郎（1912-82 年）の京城（現ソウル）時代の思想と行動を、近年遺族から福島大学附属図書館に寄贈された日記やそれを基に発見された新史料に拠りながら検討しました。

<https://www.ads.fukushima-u.ac.jp/topix/2023/11/011995.html>

行政政策学類 今西一男教授と 阪本尚文准教授が学長表彰を受賞

令和 6 年 6 月、行政政策学類の今西一男教授と阪本尚文准教授が学長表彰を受けました。

今西教授・阪本准教授の 2 人は、行政政策学類のコース横断型問題探究セミナーⅡ・Ⅲ「地方議会の議場構造論」に対して、学長教育表彰を授与されました。

また、阪本准教授は「草創期福島大学経済学部」の総合的研究」が第 5 回インテリジェント・コスモス東北文化奨励賞を、また、ポスター報告「高橋幸八郎の戦争—1941-1945」が 2023 年度政治経済学・経済史学研究奨励賞を受賞したことに対して、学長学術研究奨励表彰を授与されました。

行政政策学類ホームページでは、両先生からの受賞コメントも掲載していますので、ぜひご覧ください。

<https://www.ads.fukushima-u.ac.jp/topix/2024/06/012856.html>

教 員 異 動

日 付	職 名	氏 名	専門講義科目等	異 動 内 容
R5.10.1	准教授	小田 和正	社会学原論	採用
R6.4.1	副学長(学術情報・グローバル化担当)	菊地 芳朗	考古学	役員就任（～ R8.3.31）
R6.4.1	教授	鈴木 典夫	地域福祉論	地域未来デザインセンター長（～ R8.3.31）
R6.4.1	教授	福島 雄一	商法	教育研究評議会評議員（～ R8.3.31）
R6.4.1	教授	今西 一男	社会調査論	教育研究評議会評議員（～ R8.3.31）
R6.4.1	教授	西田奈保子	行政学	昇任
R6.4.1	教授	長谷川珠子	労働法	昇任
R6.4.1	准教授	浦谷 知絵	民事裁判法	採用
R6.4.1	教授	西田奈保子	行政学	学類長補佐（～ R7.3.31）

4年ぶりの総会・懇親会開催

2023年（令和5年）10月28日（土）に、福島市のホテル福島グリーンパレスにて、阿武隈会の総会と懇親会が開催されました。前回の開催は2019年（令和元年）でしたので、実に4年ぶりの開催となりました。

コロナ禍の影響があった3年間は、総会は書面開催、懇親会は中止としていましたが、令和5年度は、会場は恒例のホテル福島グリーンパレスであり、食事も飲み物も、全てコロナ禍以前と同じ形で開催されました。

当日は、同窓生45名、教官8名（退官された方も含む）、それから現役の学生を代表して学友会学生部会執行委員長に参加していただくなど、計54名に集まっていただき、用意していた部屋では少々窮屈と感じるほど、たくさんの方に参加していただきました。

総会では、阿武隈会の小林孝会長のあいさつの後、

議案を工藤真之理事が説明し、無事承認されました。

引き続き行われた福島懇親会は、高橋準学類長のあいさつの後、令和5年3月まで学類長をされていた垣見隆禎先生の乾杯の御発声で懇親会がスタート。

会の中盤からは、参加された教官の方ひとりひとりに御挨拶をいただき、先生方の近況報告や懐かしい学生時代の思い出などをお話いただきました。また、学友会学生部会執行委員長の米倉輝さんから、最近の大学での学生の様子などをお話いただきました。

コロナ禍前まで毎年参加していただいていた方も、今回が初めて参加という方も、会場が一体となって盛り上がり、会員同士の懇親が深められた会となりました。



高橋学類長の御挨拶



垣見前学類長の乾杯の御発声



多くの同窓生に参加いただきました

新たな伝統をつくる～卒業記念パーティーの開催～

令和5年度 学友会学生部会執行委員長 3年 米倉 輝

初めに、令和5年度卒業記念パーティーを開催できましたのは、同窓会阿武隈会の皆様、ホテルグリーンパレスの皆様、高橋学類長を始めとする教職員の皆様、そして本イベントに関わっていただいた全ての方々のおかげです。学生部会執行委員会を代表しまして、この場をお借りしお礼申し上げます。

コロナ禍による規制の下で開催した前年度の卒業記念パーティーを受けて、私たちの代ではよりコロナ禍前に近い形で開催したいと強く考えたことをつい最近のことのように思い出します。令和5年度は数年続いていた新型コロナウイルスによる制限がほとんど撤廃され、これまで通りの状態で企画を進めることが可能となり、卒業記念パーティーも制限なしで行うことが出来るようになりました。ただ当時の学生部会内でコロナ禍以前の状態を経験した者がいなかったため、「どのような運営をすれば以前のように賑わいのあるパーティーにすることができるか」に重点を置き企画を進めていきました。その点ではご経験のある阿武隈会の皆様との合同での開催となり私たちは大変心強く感じた記憶がございます。私たちの代の目標は、コロナ禍を経て新たな伝統をつくり繋げていくことであり、本パーティーは、もちろん福島大学を卒業される先輩方の門出を祝うという大きな目標を前提としております

が、その他にこれまで行政政策学類の伝統として在り続けたものを風化させずに新たな伝統として継承していくことが大切だという思いを胸に運営したものでありました。

同窓会の方々やホテル担当者様、教員部会とどのような運営をすれば従来のように先輩方に楽しんでいただけるかを常に試行錯誤しつつ、可能な限りの調整を行い過去に近い形での開催にこぎつけることができました。また、昨年度から持ち上がっていた課題である参加者数の検討については、同窓会、教員、学生部会の各方面から開催に関する広告を定期的に行っていました。その結果、運営を除き100名を超える方々にご参加いただきました。来年度は我々が創り上げた新たな伝統を基にしつつも、過去に縛られることなく柔軟な発想をもって企画し今年度よりもより良いものにできればと思っています。

最後に、私たちは、このような伝統に携われたことを誇りに感じております。本企画の関係者の皆様には私の至らない点が多いにも関わらず、多大なるご協力をいただいたことに今一度心から感謝を申し上げます。今年度の学生部会の活動へも変わらぬご愛顧、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

阿武隈会ホームページリニューアル

従来のコンテンツ（阿武隈会からのお知らせ）に加え、写真館・会報バックナンバー・役員ブログなど、新コンテンツを加え、リニューアルしました。
ぜひ、アクセスを！

<https://dousoukai.site/abukumakai/>



令和 5 年度会務報告

(R 5 (2023) 年)

5 / 27 理事会 (新年度予算・事業方針)

9 / 1 会報第29号発行

10 / 28 総会・懇親会 (於：福島グリーンパレス)

(R 6 (2024) 年)

3 / 2 理事会 (年度振り返り、来年度方針検討)

3 / 25 卒業記念パーティー ※学友会と共催

役員名簿

(令和 4 年度改選、任期は令和 6 年度総会まで)

会 長：★小林 孝

副会長：★鈴木 敬 ★小椋純一郎 ★堀江 正樹

監 事：田中 康治 鈴木 貴士

理 事：渡邊 弘利 ★加藤 千里 矢内 祐紀

★工藤 真之 ★香野 雅之 小林 良平

若松 麗葉 齊藤 雅洋 高橋あゆみ

松本 学 高橋 裕樹 須藤 達也

注) ★は福島大学同窓会(全学同窓会)役員を兼務

本会へのお問い合わせ

本会へのお問い合わせについては、ホームページの「お問い合わせ」からお願いいたします。

個人情報の管理について

会員情報は本会会報・各種行事案内の送付の目的で使用し、会員名簿を紙や電子媒体として発行・頒布することはありません。ただし理事会での議決に基づいて学内諸団体へ会員情報を提供することがあります。

その際は、本会ホームページ等で提供を行った旨を広報する、また情報提供は紙媒体で行うことを原則とします。

なお、同窓会という性格上、ご本人からの希望であっ

ても「会員名簿からの削除」は行っておらず、「連絡先情報の削除」にて対応致しますのでご承知おください。この場合はホームページの「お問い合わせ」からその旨をご連絡ください。

会員状況 (令和 6 年 9 月 1 日現在)

<正会員>

(単位：人)

行政社会学部 (※ 1)	4,554
人文社会学群 行政政策学類 (※ 2)	3,505
人文社会学群 現代教養コース (※ 3)	406
(小計) 学部・学類	8,465
地域政策科学研究科	211
(小計) 大学院	211
合計	8,676

<参考 (在学生)>

(単位：人)

人文社会学群 行政政策学類 (※ 2)	890
(小計) 学類	890
地域政策科学研究科	13
地域デザイン科学研究科 地域政策科学専攻	5
(小計) 大学院	18
合計	908

(※ 1) 昼間主コース、夜間主コースの合計

(※ 2) 昼間、夜間主の合計

(※ 3) コミュニティ共生モデル及び法政策モデルの卒業生のみ

—— おまけ写真 現在の学生寮 ——

